

地域のライフラインとして

スーパーマーケットとしての大切な役割に「ライフライン」の提供があります。当社は地域の生活インフラとして、地域のお客様の生活を支えることを根本的なミッションに据えて取り組んでいます。

ライフラインとしての使命

当社ではスーパーマーケットを運営する上で大切にしている考え方があります。

- お客様・従業員の安全第一
- 判断の基準はお客様
- ライフラインとしての使命

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、津波注意報が発せられた地域において、お客様・従業員の安全を第一に考え、お客様を店外に誘導し休業する等の対応を行いました。その後安全の確認を行い、翌1月2日10時には全店で営業を通常通り再開しました。

これらの運営は、災害で店舗が閉店に追い込まれてもライフラインとしての使命を果たすために「一分でも早くお店を開ける」という考え方に基づくものです。これからもこの使命を胸に店舗運営を続けてまいります。



2022年豪雨 原信 荒川店



2022年豪雪 原信 花園店



2024年能登半島地震 ナルス 柿崎店

過去の災害例

- 2004年 7.13水害・中越地震
- 2007年 中越沖地震
- 2022年 村上市豪雨・長岡市豪雪

特に2022年8月村上市で発生した豪雨では、原信荒川店で店内で40cm、駐車場では70cmまで浸水しました。この状況に対し、通常は復旧に1か月半かかるところ、6日後に営業を再開しました。

令和6年能登半島地震 募金活動・義援金寄付

当社では原信・ナルス・フレッセイを含む全事業所で地震に対する義援金募金活動を行い、多くのお客様からお寄せいただいた募金12,809,543円を共同仕入機構である株式会社シジシージャパン様へ寄託しました。

また、アクシアル リテイリングは地震による被災者を支援するため、義援金として新潟県に1,000万円を寄付しました。



新潟県知事への義援金寄付

商品供給の強固な基盤づくり

私たちスーパーマーケットは取引先様から商品供給を受けることで事業が成り立っています。

取引先様から確実に商品供給を受けられるよう、強固な関係構築すべく、当社グループの政策を取引先様にご理解いただく場として「原信ナルス会」と「フレッセイ共栄会」2つの会を開催しております。今後、より強固なライフラインの基盤づくり、そしてさらなるマスメリットの創出に向けて、ステップアップした新たな会合の創設に向けて検討・準備を進めています。



原信ナルス会・フレッセイ共栄会



インフラとして信頼されるために

地域のライフラインとして機能を果たすためには、普段からお客様に信頼されるお店であることが大切だと考えています。

従来、店舗運営においては、基本の4原則を掲げていましたが、この内容を見直し「信頼されるお店の3条件」を制定しました。

これをもとに、普段から信頼され、利用されるお店作りを目指してまいります。

信頼されるお店の3条件

- ①安全第一
- ②フレンドリーサービス
- ③品質、品揃え、廉価

ライフライン～災害協定

当社では「ライフライン」を提供することがミッションの根底にあると考えています。特に災害時においては、ライフラインとしての役割を全うすることが最重要課題となります。

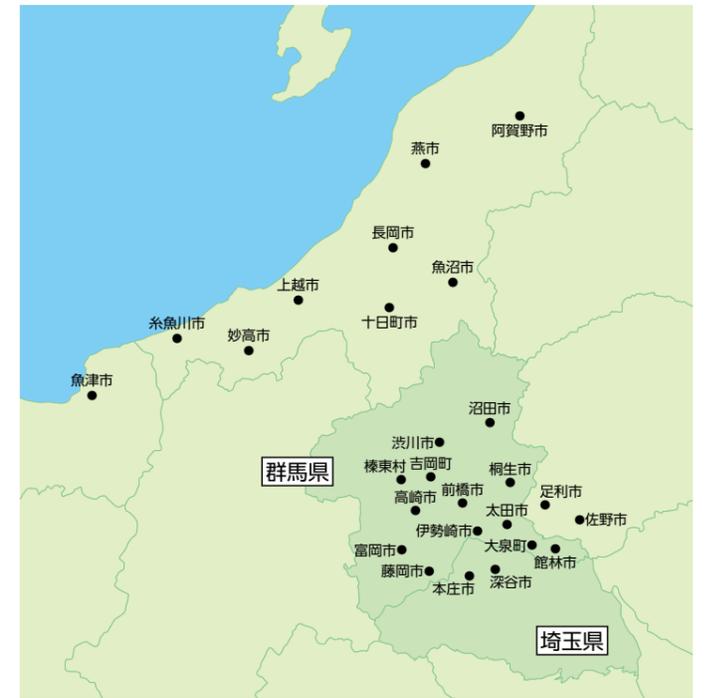
このような緊急時に、地域の方々に食品や生活必需品を届けられるよう、当社グループでは新潟県8市、富山県1市、群馬県15市町村等、栃木県2市、埼玉県2市と災害協定を締結しています。

フレッセイの取り組み

フレッセイでは1986年から店舗に募金箱を設置し、お客様からお預かりした寄付金を浄銭として地域社会への福祉につなげています。2022年度はトイレを設置したトレーラーを派遣するトイレネットワークプロジェクトへ117万円を寄付し、令和6年能登半島地震でトイレが活用されました。また、群馬県高崎市が行う「おとしよりぐるりんタクシー」、渋川市が行う「あいのりタクシー」の取り組みに賛同し、タクシーの乗降場所を提供しています。



トイレトレーラー



災害協定締結の県・市

ふるさと納税を活用した寄付

地方創生応援税制「企業版ふるさと納税」を活用して、地域を担う人材を育成する事業や次世代のまちづくり・地域の活性化に寄与する事業への寄付を行い、地域の発展に貢献しています。

原信では新潟県燕市に対し令和6年オープンを目指す燕市全天候型子供遊戯施設整備事業に活用するために100万円を寄付しました。



燕市への寄付